

令和7年度

学校評価アンケート結果

津乃峰小学校

令和7年度学校評価アンケート結果について

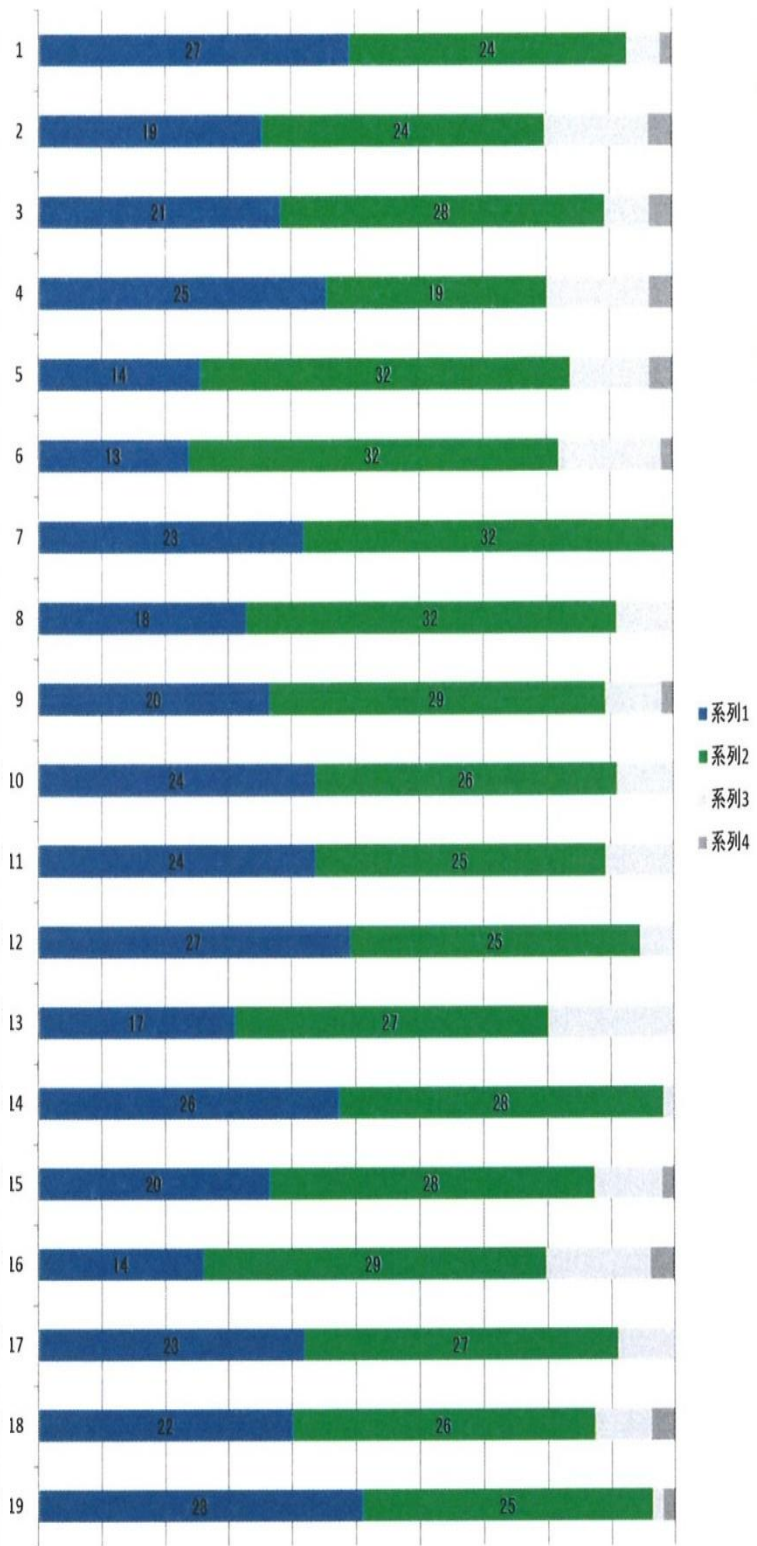
I アンケートの集計結果

◇保護者

回収率 83.3% (55/66)

[1-そう思う 2-少しそう思う 3-あまりそう思わない 4-そう思わない]

評価項目	全保護者				比較	
	1	2	3	4	R6	R7
1 子どもは、楽しく学校へ通っている。	27	24	3	1	90%	93%
2 子どもは、「早ね・早おき・朝ごはん」が できている。	19	24	9	2	76%	80%
3 子どもは、生活に必要なきまりや約束 を守っている。	21	28	4	2	92%	89%
4 子どもは、自分から進んであいさつが できている。	25	19	9	2	79%	80%
5 家庭学習(宿題や自主勉強など)が できている。	14	32	7	2	74%	84%
6 子どもは、自分の思いや考えをきちん と伝えることができている。	13	32	9	1	77%	82%
7 子どもは、自分や友達を大切にしてい る。	23	32	0	0	98%	100%
8 子どもは、学校で学んだことを生活の 中で活用している。	18	32	5	0	81%	91%
9 子どもは、自分たちの住んでいる町(阿 南市、津乃峰町)がすきだ。	20	29	5	1	84%	89%
10 学校は子どものよさを知り、そのよさを 伸ばそうと支援している。	24	26	5	0	87%	91%
11 学校は、学力向上に向けて熱心に取り 組んでいる。	24	25	6	0	84%	89%
12 学校は、体力づくりに積極的に取り組 んでいる。	27	25	3	0	92%	95%
13 学校は、いじめのない学校づくりや人 権教育に積極的に取り組んでいる。	17	27	11	0	85%	80%
14 学校は、防災教育や安全教育に積極 的に取り組んでいる。	26	28	1	0	95%	98%
15 学校は、情報モラル教育に積極的に取 り組んでいる。	20	28	6	1	89%	87%
16 学校は、ICTを活用した教育に積極 的に取り組んでいる。	14	29	9	2	82%	80%
17 学校は、安心して勉強や生活ができる ように環境整備に努めている。	23	27	5	0	92%	91%
18 学校からの情報発信により、学校の取 組や子どもの様子がよく分かる。	22	26	5	2	87%	87%
19 学校行事は、子どもにとって有意義な ものとなっている。	28	25	1	1	98%	96%

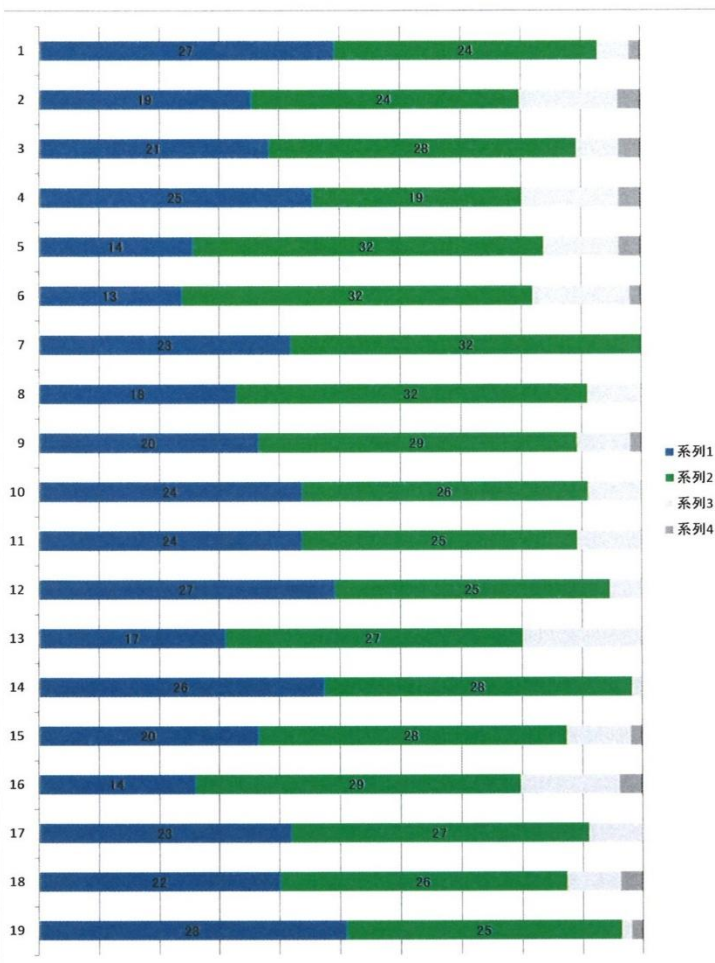


◇児童

回収率 97.0% (64/66)

[1-そう思う 2-少しそう思う 3-あまりそう思わない 4-そう思わない]

評価項目	全児童				比較	
	1	2	3	4	R6	R7
1 学校へ行くのが楽しい。	27	23	8	6	82%	78%
2 「早ね・早おき・朝ごはん」ができています。	25	21	12	6	67%	72%
3 生活に必要なきまりや約束を守っている。	30	24	6	4	82%	84%
4 自分から進んであいさつができています。	23	29	8	4	77%	81%
5 家庭学習(宿題や自主勉強など)ができています。	33	19	7	5	76%	81%
6 自分の思いや考えをきちんと伝えることができています。	25	23	8	8	74%	75%
7 自分や友達を大切にしている。	45	12	5	2	96%	89%
8 授業で学習したことを生活の中で使おうとしたり考えようとしていたりしている。	19	27	13	5	74%	72%
9 自分たちの住んでいる町(阿南市、津乃峰町)がすきだ。	37	18	3	6	85%	86%
10 先生は自分のよいところやがんばっていることをほめたり、はげましたりしてくれる。	39	17	1	7	86%	88%
11 授業は、楽しく分かりやすい。	30	23	6	5	86%	83%
12 休み時間に外で遊んだり体育の時間に楽しく運動したりしている。	40	11	10	3	81%	80%
13 どんな理由があってもいじめや差別はいけないことだと学習した。	52	10	2	0	94%	97%
14 地震や津波などの災害から避難する方法や交通安全、不審者から身を守る方法についてきちんと学習した。	45	16	2	1	94%	95%
15 携帯電話やスマホ、インターネットのルールを守るの大切なことだと学習した。	46	14	1	3	92%	94%
16 タブレットなどを使った学習によって、授業がわかりやすくなった。	23	24	13	4	74%	73%
17 学校は、安心して勉強や生活ができるように環境を整えてくれている。	34	12	3	1	80%	92%



項目		比較	
		R6	R7
1 子どもは、楽しく学校へ通っている。	保護者	90%	93%
	児童	82%	78%
2 子どもは、「早ね・早おき・朝ごはん」ができています。	保護者	76%	80%
	児童	67%	72%
3 子どもは、生活に必要なきまりや約束を守っている。	保護者	92%	89%
	児童	82%	84%
4 子どもは、自分から進んであいさつができています。	保護者	79%	80%
	児童	77%	81%
5 家庭学習(宿題や自主勉強など)ができています。	保護者	74%	84%
	児童	76%	81%
6 子どもは、自分の思いや考えをきちんと伝えることができています。	保護者	77%	82%
	児童	74%	75%
7 子どもは、自分や友達を大切にしている。	保護者	98%	100%
	児童	96%	89%
8 子どもは、学校で学んだことを生活の中で活用している。	保護者	81%	91%
	児童	74%	72%
9 自分たちの住んでいる町(阿南市、津乃峰町)がすきだ。	保護者	84%	89%
	児童	85%	86%
10 学校は子どものよさを知り、そのよさを伸ばそうと支援している。	保護者	87%	91%
	児童	86%	88%
11 学校は、学力向上に向けて熱心に取り組んでいる。	保護者	84%	89%
	児童	86%	83%
12 学校は、体力づくりに積極的に取り組んでいる。	保護者	92%	95%
	児童	81%	80%
13 学校は、いじめのない学校づくりや人権教育に積極的に取り組んでいる。	保護者	85%	80%
	児童	94%	97%
14 学校は、防災教育や安全教育に積極的に取り組んでいる。	保護者	95%	98%
	児童	94%	95%
15 学校は、情報モラル教育に積極的に取り組んでいる。	保護者	89%	87%
	児童	92%	94%
16 学校は、ICTを活用した教育に積極的に取り組んでいる。	保護者	82%	80%
	児童	74%	73%
17 学校は、安心して勉強や生活ができるように環境整備に努めている。	保護者	92%	91%
	児童	80%	92%
18 学校からの情報発信により、学校の取組や子どもの様子がよく分かる。	保護者	98%	96%
	児童	98%	96%
19 学校行事は、子どもにとって有意義なものとなっている。	保護者	98%	96%
	児童	98%	96%

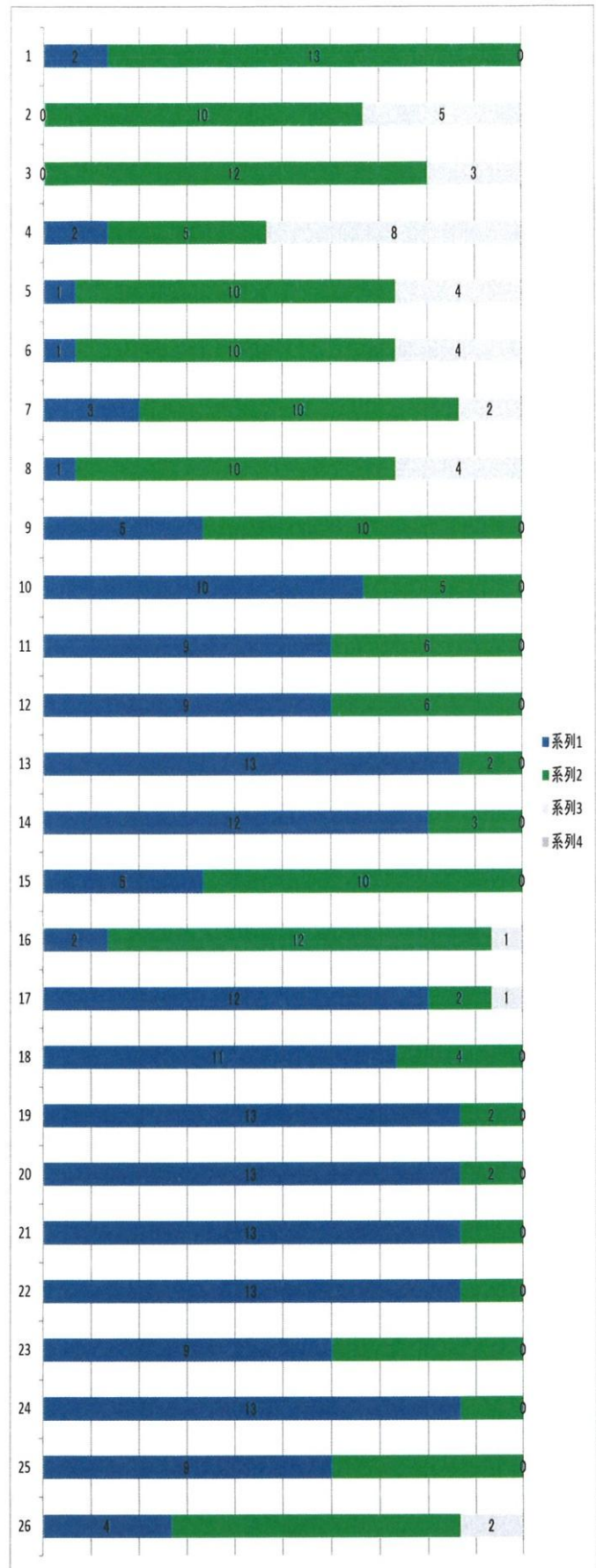
◇ 教職員

回収率 93.8%

[1-そう思う 2-少しそう思う 3-あまりそう思わない 4-そう思わない]

集計数 15

	評価項目	教職員				比較	
		1	2	3	4	R6	R7
1	児童は、楽しく学校へ通っている。	2	13	0	0	100%	100%
2	児童は、「早ね・早おき・朝ごはん」ができてい	0	10	5	0	81%	67%
3	児童は、生活に必要なきまりや約束を守って	0	12	3	0	88%	80%
4	児童は、自分から進んであいさつができてい	2	5	8	0	50%	47%
5	児童は、家庭学習(宿題、自主勉強など)の習	1	10	4	0	75%	73%
6	児童は、自分の思いや考えをきちんと伝える	1	10	4	0	81%	73%
7	児童は、自分や友達を大切にしている。	3	10	2	0	94%	87%
8	児童は、学校で学んだことを生活の中で活用	1	10	4	0	75%	73%
9	児童は、自分たちの住んでいる町(阿南市、	5	10	0	0	100%	100%
10	学校は子どものよさを知り、そのよさを伸ばそ	10	5	0	0	100%	100%
11	学校は、学力向上に向けて熱心に取り組んで	9	6	0	0	100%	100%
12	学校は、体力づくりに積極的に取り組んでい	9	6	0	0	100%	100%
13	学校は、いじめのない学校づくりや人権教育	13	2	0	0	100%	100%
14	学校は、防災教育や安全教育に積極的に取	12	3	0	0	100%	100%
15	学校は、情報モラル教育に積極的に取り組ん	5	10	0	0	100%	100%
16	学校は、ICTを活用した教育に積極的に取	2	12	1	0	94%	93%
17	学校は、安心して勉強や生活ができるように	12	2	1	0	100%	93%
18	学校は、学年だよりやHPなどにより情報発信	11	4	0	0	100%	100%
19	学校行事は、児童にとって有意義なもの	13	2	0	0	94%	100%
20	「命と人権、安全を大切に、たくましく生きる	13	2	0	0	100%	100%
21	問題が起こったとき、組織的対応ができてい	13	2	0	0	100%	100%
22	児童理解に努め、一人一人を大切にしてい	13	2	0	0	100%	100%
23	授業の組み立てや発問を工夫し、授業改善に	9	6	0	0	100%	100%
24	教職員間でよく話し、風通しのよい職場づく	13	2	0	0	100%	100%
25	優先順位を付けて業務を行うなど、業務の効	9	6	0	0	93%	100%
26	情報教育(ICT)によって指導環境が向上した	4	9	2	0	88%	87%



Ⅱ 考察と集計結果を踏まえての今後の取組について

◇児童の様子に関すること（1～9）

2「早ね・早おき・朝ごはん」については昨年度よりも肯定的な回答が増えていますが、児童72%、保護者79%と一番の課題であることが分かりました。3「きまりや約束」、4「あいさつ」、5「家庭学習」、6「自分の思いを伝える」、9「自分の町が好き」については、保護者・児童ともに昨年度よりも肯定的な回答が増えていますが、十分でないと感じている回答も1～2割近くあります。児童と保護者の差が見られたのは、8「学んだことを生活に活用」児童72%、保護者91%、1「学校が楽しい」児童78%、保護者93%、7「自分や友達を大切に」児童89%、保護者100%でした。

- ①学校全体で「早ね・早起き・朝ごはん」を呼びかけ、基本的な生活習慣が身に付くよう家庭と協力しながら継続した取組を行っていく。
- ②学校が楽しいと感じられるよう、いじめの防止や友達と良好な人間関係が築けるような取組を行い、仲間づくりをしっかりと行う。また、自分たちが決めたことを自分たちで実践していく経験を増やし、達成感や自己肯定感を高める。授業を工夫し、児童が分かりやすく楽しい学びを実感できるようにする。
- ③授業で学習したことが生活場面でどのように活用されているのか、生活の中のつながりについて児童が気付くことができるよう授業での振り返りを行う。
- ④自分や友達の大切さが実感できるよう、命の大切さや違いを認め合うことの大切さについて道徳や人権学習で重点的に取り扱い、交流や体験を通して学ぶ機会をつくる。
- ⑤学校のきまりについては、児童の規範意識が高まるよう全教職員で共通理解し指導するとともに、保護者の方にもしっかり周知し、家庭でもきまりの大切さについて話をしてもらえようはたらきかける。

◇教育活動に関すること（10～19）

14「防災教育・安全教育」17「環境整備」については児童・保護者とも9割以上肯定的な回答が得られました。14は継続して防災教育に取り組んできたこと、17は保護者や地域ボランティアの方が環境美化に協力してくれていることがよい結果につながったと考えます。また、19「学校行事」12「体力づくり」については保護者から9割以上肯定的な回答が見られました。19は保護者や地域が一体となって秋まつりや運動会などの学校行事を伝統的に行ってきたことや、12は陸上、水泳、相撲、一輪車の練習に積極的に取り組んだ成果と推察します。10「先生は自分の～をほめたりはげましたり」で肯定的な回答が児童も保護者も前年度より増えていきます。学校でのポジティブな行動支援（プラスの言葉がけ）が増えてきたからだと考えられます。一方、16「ICT活用」については、児童（73%）も保護者（80%）も十分でないと感じていることが分かりました。13「いじめのない学校づくり」（児童97%、保護者80%）、15「情報モラル教育」（児童94%、保護者87%）については、児童と保護者の回答に差が見られ、十分でないと感じている保護者が児童よりも多くいることが分かりました。

- ①「ICT活用」については、授業でタブレットを有効に活用できるように、ICTに関する教職員研修を行い教職員のスキルアップを図るとともに、家庭でのタブレット活用について保護者の理解・協力を得る。
- ②「いじめのない学校づくり」については、定期的なアンケート調査だけでなく、日々の児童の様子をしっかりと観察し、早期発見・早期対応に努める。また、一人一人が大切にされる学級づくりに努め、道徳の授業や人権学習を通していじめや差別を許さない心や態度を育てるとともに、学校での取組を積極的に情報発信していく。
- ③「情報モラル教育」については、今後も全ての学年で年間指導計画に位置付け、出前授業を行ったり、保護者と一緒に学べる機会を設けたりするとともに、継続的に指導していく。家庭でのSNSの使用のルールをしっかりと決め、法律で定められたアプリの使用年齢を守るよう啓発していく。
- ④「学力向上」については、「読むこと」「書くこと」「計算」についても反復練習を取り入れ、基礎・基本の定着を図る。また、児童の実態に合わせた適切な課題を設定し、友達と関わりながら主体的に学習に取り組むことができるよう工夫するなど、今後も授業改善を行う。

◇学校経営に関すること（20～26）

20「命と人権、安全を大切にする」児童の育成、21「組織的対応」、22「児童理解」、23「授業改善」24「風通しのよい職場環境」、25「業務の効率化」については、全職員から肯定的な回答が得られている。「業務の効率化」については昨年度より7ポイント上がっており、教職員の業務改善や働き方改革に対する意識が向上したと考えられる。26「情報教育による指導環境の向上」は肯定的回答が87%となっており、誰もが活用できるICTの活用に向けて取り組まなければならないと考える。

- ① 「困りごとや悩みごとはひとりで抱え込まないよう常に声かけし、組織的な対応ができるよう共通理解を図る。どんな小さなことでも周りの職員に伝えるとともに、互いに声をかけ合う風土をつくっていく。
- ② さらに業務改善をめざし、学校行事の練習の見直しや会議の精選ややり方の見直しを行う。また外部講師や学びサポーター、学校ボランティアなど、外部人材を積極的に活用し、教職員の負担を軽減する。教材研究や学級事務の時間が確保できるよう校時表・下校時間の見直しも行う。
- ③ デジタル教科書やタブレット端末の活用の仕方の事例研究や、校務支援システム、県域グループアカウントの活用などについて校内研修を設ける。また、ICT支援員の来校日に質問事項をまとめ教えてもらったりし、ICTの活用促進を図っていく。常にOJTを意識し、互いに尋ね合いや教え合いができる環境づくりをする。